

# 山と電気の風景論 ②

## 甲斐駒ヶ岳と仙丈ヶ岳～南アルプスの男・団十郎と女王・クイーン～

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

### 新年は高山から里山まで健康ウォークを

新年おめでとうございます。今年も風景論のお付き合いを宜しくお願いいたします。読者の皆様には、きっと海ばかりか山を眺め初日の出を仰いだ方も多いでしょう。日本には15000の山があり国土の7割以上が山岳地域。日本の登山者は840万人だが電力マン/ウーマンは山岳地域が水力などのエネルギー源であるため山好きの方がワンサカいるはずだ。

初夢の一富士の富士山をはじめ高山は美しく景色も素晴らしく太古からの自然の姿を残して夏山の快晴時は天国。しかし高山は噴火、豪雨、濃霧、凍結などで遭難もあり魔物が住むような厳しい側面もある。そうした急激な変化を受けとめリスクを緩和し、耐える局面も人生やビジネスで多々あるだけに、きっと登山の経験は役立つだろう。

高山は危険な面があるが低山や里山は比較的安全で裾野が広い。新年は高山とともに低山や里山歩きで健康維持をしたい。

### ハンサムの山vsクイーンの山

新年号は南アルプスで向かい合うハンサム甲斐駒ヶ岳（以下甲斐駒）、クイーン仙丈ヶ岳を特集する。前者は男前、イケメンだが屹立した険しい男性的山岳、後者は気品がありなだらかな女王の山と言われる。女王・仙丈ヶ岳は南アルプスの最初の登山とし



山の団十郎・甲斐駒ヶ岳（仙丈ヶ岳六合目から）



南アルプスの女王、気品ある仙丈ヶ岳



富士山<後方>, 鳳凰三山<手前>。仙丈ヶ岳頂上から撮影

てお勧めだ。氷河時代のカール付近の稜線に、お花畑が続く麗峰で高山の割に比較的登りやすいからだ。頂上からは横並びの三トップ高峰も眺望できる。一方、甲斐駒は作家の宇野浩二が『山恋ひ』の中で、「山の団十郎」と絶賛した。中央道や中央線の車窓からも孤高で高貴な山容が迫ってくる。白い花崗岩で形成された摩利支天と甲斐駒はセットで造形美を放つ。頂上からの絶景も楽しめる。

### 甲斐駒ヶ岳 <標高2967m> 平成24年8月24日～25日(24日長衛荘泊, 25日登頂)

往復距離8.2km, 7時間15分(休憩含む), 標高差987m(上り)。

24日に10時新宿発JR⇒甲府バス⇒広河原バス⇒北沢峠14時50分着で、長衛荘泊。好天に恵まれ、満員で雑魚寝状態だった。25日は早朝に身支度し、なだらかな砂利道を経て北沢に沿って歩み、仙水小屋を過ぎシラビソの森に入る。やがてゴロゴロした火山岩を越えて進むと仙水峠に着き岩上で一服した。

この仙水峠から標高差500mの急登がきつかった。深い森の中で、暑さをしのぐ。駒津峰からアップダウン、下りの後、直登コースに入り細心の注意で滑りに注意した。ナイフブリッジの刃渡りのような岩上でしばらく立ち往生した。

何とか、やせ岩道を越えると頂上が見えホッとしました。よく見ると右に優しい白砂の巻き道があったが、標識を見落として岩場コースに入ったのがあった。頂上では、甲斐駒と摩利支天の花崗岩が



甲斐駒頂上。岳友の島矢謹爾氏撮影。

空の蒼さと対照的に白く輝く。山頂から鳳凰三山、その向こうに富士山が展望でき360度パノラマは絶景だった。

帰路は、双児山から樹林帯の下り急坂のジグザグ道をゆく。バス時間に間に合わせるためスピードアップしすぎて、途中で膝の筋肉痛が出てゆっくり下山した。

### 【行程】25日登頂日

- 5:04 長衛荘発。
- 5:25 仙水小屋。
- 5:48 仙水峠2287m。
- 7:10～7:20 駒津峰分岐点2752m。
- 9:03～9:20 甲斐駒ヶ岳頂上2967m。
- 10:25～10:40 駒津峰分岐点。
- 11:20～11:40 双児山2649m。
- 12:19 長衛荘着(13:05発専用バスに乗り、広河原乗換えて甲府で岳友と反省会)。

### 仙丈ヶ岳 <標高3033m> 平成27年10月17日～18日(17日芦安泊, 18日登頂)

往復距離9.4km, 5時間38分(休憩含む), 標高差1073m(上り)。

100万年前に隆起し始め現在の山容となったという。いまは、南アルプスアクセス道路が開通し専用バスで便利になった。山梨から北沢峠登山口まで一時間ほどだ。登山は、なだらかな山道で草原の尾根道もあり気分爽快である。富士山、北岳、間ノ岳の最高峰の絶景スポットもある。

登山口から一般的には約三時間の道程。登り始めから深い森のなかをシラビソ、コメツガなどの針葉樹林帯を進む。30分ほどで急傾斜の坂を上る。麓では雪溶けの清流にたどり着く。稜線では正面に仙丈ヶ岳頂上が顔を出す。尾根から、仙丈小屋は氷河時代の名残で削られたカール内に見えた。小仙丈ヶ岳から仙丈ヶ岳はハイマツと細い稜線となる。頂上では日本のアルプスの南、中央、北まで遙かに眺望でき富士山もくっきり遠景できた。帰りは秋のナナカマドなどの紅葉を見つつ、山小屋の閉鎖作業も見つつ、下った。

### 【行程】18日登頂日

- 4:15 芦安駐車場車中で起床(満天の星空。流



秋晴れの仙丈ヶ岳頂上にて。

星や人工衛星も飛ぶ)。

- 5:15 市営芦安駐車場発～広河原6:18着。
  - 6:50 広河原～7:15北沢峠着。
  - 7:20 北沢峠登山口発。
  - 8:09 四合目。
  - 8:25 大滝の頭。
  - 8:40 2600m地点。ここまでシラビソ、コメツガ等の原生林で展望なくひたすら歩く。
  - 8:50 ようやく6合目森林限界で景観開ける。絶好ビュー。富士山、北岳、甲斐駒、槍穂高岳など展望。
  - 8:58 発。ハイマツ、ナナカマドなどの道を通る。
  - 9:30 小仙丈ヶ岳2864m。
  - 10:20～10:35 仙丈ヶ岳登頂3033m。写真、昼食。
  - 10:58 仙丈小屋。
  - 11:24 馬の背ヒュッテ着。昨日で閉鎖(スタッフが作業で汗かいていた)。
  - 11:55～12:00 大滝の頭。給水。
  - 12:53 広河原着。長衛荘でホット珈琲で一息入れ、山バッジ買う。
  - 13:30 北沢峠発～広河原乗り換え、夜叉神経由15:25芦安駐車場着。
- 芦安日帰り温泉で1時間休憩。甲府へドライブし、特急かいじで19時過ぎ新宿。

### 積雪とカールの豊富な水源で水力発電

11月には北沢峠までの車窓から冠雪した北岳、間ノ岳、農鳥岳も見える。甲斐駒、仙丈ヶ岳も沢や滝が連続している。バスが走る野呂川渓谷の最深は300m。北沢峠から芦安までの南アルプス林道は34.1kmもあり、水源も多い。途中の広河原には11のダムがあり山梨県と東京電力が所有している。山岳地帯の雪渓・雨→野呂川→早川→富士川へ61kmと続き豊富な水源が、水力発電となって都心の電源も支えている。水源は北岳、間ノ岳からも集まり日本有数の水源となっているのである。仙丈ヶ岳は三カールの藪沢、小仙丈、大仙丈を擁し、甲斐駒、摩利支天付近の花崗岩は秋～春先まで白銀の世界である。